

私の一文字



PIVOT 代表取締役
佐々木 紀彦

2019年度より第1期ノミネートメンバー、
2021年4月経済同友会入会。21年度ラウン
ドテーブル・クロスリーチPT副委員長。

学んだ上で「創る」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第1期ノミネートメンバーだった会員経営者の皆さまにお話を伺うシリーズの3回目は、佐々木紀彦PIVOT代表取締役にご登場いただきました。

岡西 「創」という字はつくり部の「りっとう」と「倉」を合わせた漢字で、刃物で素材に切れ目を入れ、何かを創り始めるという意味があります。新たに何かを「創る」際に意識してこられたことは何でしょうか。

佐々木 たくましく躍動感のある字をありがとうございます。創るのに「無」からは生まれないので、先輩、過去の歴史からいろいろ学ぶことを意識してきました。今年6月に起業するにあたり関連の本を読んだり、100人くらいの人にお話を伺ったりして知恵を学びました。創ることは学ぶことと表裏一体と感じます。

留学先の米スタンフォード大学で学んでいたとき、歴史の浅い米国が意外に歴史を大事にしていることに驚きました。フェイスブック創業者のザッカーバーグもローマ史などが好きです。学んだ上で創るという私の姿勢は、留学で学んだことです。日本はいつの間にかそういう姿勢を失い、根本の歴史を学び何かを創ることをしないようになりました。

福岡で育ったのですが、もともとは鹿児島の家系です。父や祖父が西郷隆盛の肖像画などを掲げていたので、明治維

新のストーリーが好きです。そのため、創造の根源にあるのは知的好奇心と、日本をどうにかしたいというか、日本に対する思い、その二つかもしれません。

岡西 PIVOTで創り上げたい世界観をお教えてください。

佐々木 経済は「経世済民」の略で、経済を通して人々を救うという意味ですが、PIVOTは人々が仕事や経済を楽しめるよう、「経世楽民」を理念としています。そのために「スタートアップ」を第一の軸に、サラリーマンだけではない令和時代の仕事のあり方をコンテンツで紹介します。

もう一つの軸はSDGsです。SDGsは世界を動かすワードになっており、SDGsがどう世の中を変え、われわれの生活や仕事を変えるのかを分かりやすく、深く届けていきます。

岡西 韓国の映像メディア技術にご関心をお持ちとか。

佐々木 K-POPの影響でベトナムは韓国一色だそうです。コンテンツの力は経済に密接につながっています。逆に日本は「クールジャパン」戦略が失敗したが故に、海外での全体のイメージは「高いけれど、あまりカッコよくない」という感じだと耳にします。これだけ素晴らしい文化、コンテンツがあるのにもったいない。ここ20年ぐらい努力し世界に出て行った韓国のコンテンツ、起業家のやり方を学ぼうと研究しています。

岡西 今後の経済同友会活動への抱負をお聞かせください。

佐々木 経済同友会には壮々たる経営者の方がいらっしゃいますが、そういった方々と30代、40代の新しい起業経営者たちが混ざり合い、「リブランディング(ブランド再構築)」はおこがましいですが、経済同友会に新しいイメージを追加することに貢献できればと思います。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。